

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業 経常事務事業 建設事務事業

第5次行政改革大綱第1次アクションプランとの関連
 有
 無

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	緑化推進事業							
1-2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	都市計画課	係	都市施設係	評価票作成者	公園緑地担当係長 朝岡正志
1-3 総合計画における施策の体系	節	生活環境 「安全・安心で、うるおいのあるまちづくり」			基本施策	緑化	コード	1 2 3
	項				単位施策(中)	緑化推進及び緑地保全	コード	1 2 3 1
		水と緑の環境づくり			単位施策(小)	緑化の推進	コード	1 2 3 1 1
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	市民		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	地域団体やボランティアの協力により、公園や道路等を花でかざり人々の緑化に対する意識や関心を高めていく。			
1-5 事務事業の内容	地域団体やボランティアの協力により、公園や道路等に設置された花壇やプランターに花を植栽し、その維持管理をしていただく。また「花いっぱいコンテスト」を毎年実施して、家庭における緑化の推進を図る。							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	ボランティア同士の意見を交換しあえる場として打合せ会を開催した。またホームページや広報を通じてコンテストへの参加を呼びかけた。	緑化の推進は、都市の温暖化を防ぐ重要な役割を担っており、今後もその重要度は増すことが予想される。	生活の中における緑がやすらぎやうるおいを与えてくれるだけでなく、都市の温暖化を防ぐ有効な手段として考えられている点でも市民ニーズは非常に高いと思われる。		
平成19年度	可能な限りボランティアの要望に答え、花壇の整備、花苗の手配に心がけた。	"		"		
平成20年度	"	緑化推進のための花壇のが重要な位置づけにあるが、これを支えているボランティアの高齢化が進み活動人数が急激に減少している。		緑や花壇に対する意識はかなり関心があるが「花いっぱいコンテスト」の終了が残念。		
平成21年度						
平成22年度						
平成23年度						
平成24年度						
平成25年度						
平成26年度						
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	花壇等が設置されている公園等でのボランティアの活動人数(人)	330(人)	350(人)	公園や道路等にはたくさん花壇やプランターが設置され花が育てられているが、それらを単に行政が管理するのではなく、地域のボランティアがどれだけ緑化推進に理解を示し、維持管理をしているかの指標。	

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績 a(単位)	327(人)	320(人)	266(人)							
	直接事業費 b(千円)	4,002	3,600	2,965							
	人件費 c(千円)	804	801	795							
	合計コスト d(b+c)(千円)	4,806	4,401	3,760							
	単位コスト d/a(千円)	1人当たり 14	1人当たり 13	1人当たり 14	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績(活動数値)の補足説明

→ 直接事業費は、ボランティアに植えていただく花苗を購入する経費やその他必要とされる資材を購入する経費等。
 人件費は係総事業費(3人分)の4割の内10%

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2-4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(人)	327	320	266							
	後期目標値に対する達成度(%)	93.4	91.4	76.0							

3 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果 (アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度 担当課評価		A	A	A							

4段階評価結果 A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 D : 事務事業の廃止が相当

判断の基準 必要性(必要な事務事業であるか)
 公共性(公が実施する意味があるか)
 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3-2 評価の内容		今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
平成18年度		緑化の推進は都市の温暖化を防ぐためにも非常に重要であり、単発ではなく継続した事業の実施が必要であると認識している。	地域の緑化推進にはボランティアの活動は不可欠であり、今後も活動を続けていただけるよう努めていく。	地域団体やボランティア、さらには各家庭における緑化活動が人々にやすらぎやうおいを与えている。
平成19年度		"	花いっぱいコンテストは終了したが緑化推進、温暖化阻止に向けて個人での活動を推進していく。	一部地区において既設の花壇の拡大傾向もあり、緑化推進、花いっぱい運動が市民に浸透しつつある。
平成20年度		ボランティアの年齢が高く、年々減少傾向にあるので若年層の加入等人材確保が急務である。	地域の緑化推進にはボランティアの活動は不可欠であり、今後も活動を続けていただけるよう努めていく。	豊明市 = 花のイメージが市民に浸透しつつある。
平成21年度				
平成22年度				
平成23年度				
平成24年度				
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				

4 事務事業の総合評価結果

4-1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度		A	継続して事業を進めること。
平成19年度		A	継続して事業を進めること。
平成20年度		B	ボランティアの参加人数が減少している要因に対処し、参加人数を増加するように努めること。
平成21年度			
平成22年度			
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			